

2007年3月期 第1四半期決算発表 アナリスト向け説明会質疑応答

平成18年7月31日
富士重工業株式会社

Q：今第1四半期では、108億円と大きく営業利益が出ている。従来までは第1四半期では利益が出ないという傾向だったが、傾向が変わってきたのか、教えてほしい。

A：第1四半期の利益が出にくい傾向に変わりはありません。今回は、営業利益108億円の内、ほぼ半数を為替が占めています。また、レガシィのビッグマイナーチェンジや国内のステラ、北米でのトライベッカ導入など、新型車の投入により売上構成が31億円寄与しています。

Q：見通しは変更しないとのことだが、年度決算発表時の上期計画と第1四半期を差し引きすると、第2四半期では営業利益が半減するが、その見方について教えてほしい。

A：第2四半期の営業利益要因には、現段階で変動要素があります。為替レート差では、上期見通しから単純に第1四半期を差し引きすると、第2四半期は▲28億円となりますが、第2四半期も115円/ドルを見込んでいるため、為替レート差で利益の上ブレを見込んでいます。その一方で、北米での販売費の増加が諸経費の増となり、減益の要因になると考えております。これらが相殺し合うため、中間期の見通しは変えておりません。

Q：営業利益増減要因にある、売上構成差の在庫調整等53億円について内訳を教えてほしい。

A：在庫未実現が34億円となっており、内、国内が8億円、海外が26億円になっています。そのほかには、3カンパニー（航空宇宙、産業機器、エコテクノロジー）の利益増などで19億円になっています。

Q：北米の販売状況と今後の見通しを教えてください。

A：北米の販売は6月に小売で過去最高となり、若干持ち直してきております。しかし、2006モデルイヤーを売り切りするために、インセンティブが増加しており、第1四半期で2,000ドル、第2四半期では3,000ドルとなっております。下半期にはインセンティブを削減していき、年間では1,800ドル程度になると見込んでいます。

Q：オートデータを見ると、トライベッカにはキャッシュと低金利で4,000ドルと高いインセンティブがついている。販売台数の変更はないとのことだが、数量を達成するためにこのインセンティブを許容していくのか、考え方を教えてください。

A：レガシィの2007年モデルイヤーでは、ビッグマイナーチェンジの効果もあることからインセンティブを減らしたいと考えています。トライベッカについては、来年に大きな変更を考えており、それまでは現状のようなインセンティブが続くと考えており、変更後には減らしていきます。北米の年間販売台数計画は201千台と発表しておりますが、4-6月の販売は計画通りに進んでいます。若干厳しい状況ではありますが、200千台レベルを維持していきます。

Q：航空宇宙カンパニーを中心に3カンパニーの営業利益が大きくなっているが、第1四半期の営業利益を4倍したくらいを年間の利益と考えてよいか、教えてほしい。

A：年間の営業利益見通しは変えておりません。航空宇宙カンパニーでは、一部会計上の問題が影響しているため、第1四半期の利益が大きく出たようになっています。

Q：原材料価格の市況の影響について、また、原価低減について今後の考え方を教えてほしい。

A：原材料価格については、資材によって入り繰りはありますが、年間想定160億円の市況影響見通しは変更いたしません。原価低減については、価格がまだ決定されていないものもあり、第1四半期では強含みになり、第2四半期では少し戻しが出てくると考えております。更なる原価低減努力を続けていきます。

Q：営業利益増減要因について、第1四半期結果と上期計画を差し引きした第2四半期の諸経費が、100億円以上の減益要因になるが、この詳細を教えてほしい。

A：差し引きで見た場合、諸経費の増が119億円になります。119億円の内訳は以下の通りとなります。

(1) 販売管理費で、国内▲32億円、SOA▲29億円、その他地域▲8億円

(2) クレーム費増で▲23億円

(3) その他製造固定費などの増加で▲27億円

SOAの販売管理費がもう少し増えると考えております。

Q：損益計算書の営業外に入っている為替関連の損益や、デリバティブ評価損益の動きについて教えてほしい。

A：デリバティブ評価益が16.3億円、為替差損は31.5億円になります。為替差損が前年より膨らみ、デリバティブ評価損益がほぼ前年同額益となり、為替差損益とデリバティブ評価損益の増減額が相殺されています。

Q：北米の在庫状況について教えてほしい。

A：2006年3月末の59,600台から、6月末には51,500台レベルまで削減が進んでいます。

Q：現時点での為替予約の進捗について教えてほしい。

A：110円強/ドルで85%の予約を行っています。ユーロ、カナダドルについても80%以上をヘッジしております。

Q：航空宇宙カンパニーの利益率が5%の目標を超えている要因を教えてほしい。

A：民需の回復による寄与が大きいと考えております。

以上